

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 西門司 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

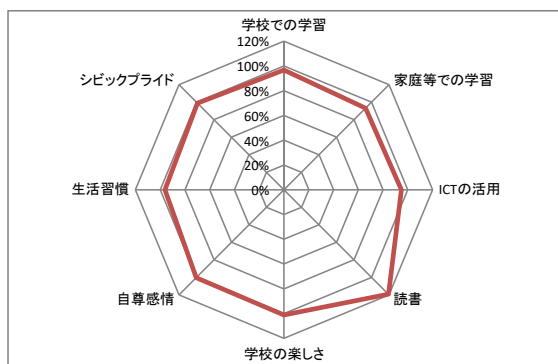
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に、全国平均正答率をわずかに下回っている。特に、思考・判断・表現の領域の書く領域が下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話の中心をとらえて聞く問題	
	努力が必要な問題	自分の考えが伝わるような文章を書く問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に、全国平均正答率をわずかに下回っている。特に、図形の問題の正答率が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	棒グラフや折れ線グラフなどの読み取る問題	
	努力が必要な問題	台形や正方形などの性質についての理解。また面積や体積などの求める問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を好む児童が、82%いる。日頃より、読書する習慣が定着するように学校全体で読み聞かせや新刊の紹介などの取り組みを行っている。</li> <li>・自分には、よいところがあると思う児童が83%いる。道徳の学習や日頃の学級での声かけの中で友達の良いところを見つけて称賛する活動を大切にしている。</li> <li>・学習の中で、タブレット端末やICT機器を活用した学習が有効的だと考える児童が95%いる。個別最適化した学習が定着すること、多くの情報を取捨選択する能力の育成、情報モラル教育等、今後も継続して指導を行っていく。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

○ 全職員で「学びチャレンジリーディングスクール事業 国語科」の研究を深め、基礎・基本の定着・学習規律・ノート指導・補充学習・話し合い活動の充実を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 学校と家庭とが連携を深め、より一層の家庭学習の充実を図る。家庭学習では、読む・書く・計算することの基礎・基本を中心に学力向上を目指している。